日本大学 通信教育部校友会報

NIHON UNIVERSITY DISTANCE LEARNING DIVISION ALUMNI ASSOCIATION

発行所：日本大学通信教育部校友会　〒102-8251　東京都千代田区五番町12-5　TEL・FAX　03（3234）5858
発行責任者：鈴木　勝／編集責任者：師田 袈裟茂　通信教育部校友会ホームページ：http://www.nudld-koyukai.sakura.ne.jp/wp/

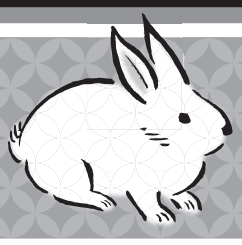
道聴而塗説、徳之棄也

道に聴きて塗に説くは、徳をこれ棄つるなり。

［道路で聞いてそのまま途中で話してしまうというのは、［よく考えて身につけようとはしないのだから］徳を棄てるものだ。］

『論語』

令和５年元旦　謹賀新年



新年のご挨拶

日本大学通信教育部校友会 会長　鈴木　勝

新年あけましておめでとうございます。全国校友の皆様に心から新年のご挨拶を申し上げます。

日本大学通信教育部校友会として、昨年5月に、アルカディア市ケ谷にて全国の常任幹事（代理含む）にお集まり頂き、定期総会を対面で開催出来ました事、役員の皆様に紙面をお借りしまして、感謝申し上げます。定期総会終了後の懇親会には、大学からと他学部校友会から多くの来賓の出席を頂き盛大に執り行われました事を報告致します。又アトラクションとして、三重県の常任幹事大形支部長が手品を披露して下さり、懇親会を大いに盛り上げて下さいました。昨年後半から、各支部・ブロックにおいて、コロナの感染対策を充分取りながらの、総会を対面で開催する地区が増えて来た様に感じます。うれしい傾向だと思います。

日本大学は、昨年7月理事長に林 真理子氏。学長に酒井 健夫氏が就任して、色々な改革を進めています、日本一の総合大学を目指し、大きく変貌してきました。校友会も遅ればせながら、改革委員会を立ち上げて、改革案を議論しています。近いうちに皆様に報告できると思います。もうしばらくお待ちください。

さて、今年は通信教育部校友会役員改選の年です。3月に役員選考委員会が開催されますので、常任幹事の皆様、役員の推薦を宜しくお願い致します。

日本大学通信教育部校友会は昨年創立50周年を迎えました。記念事業として、「創立50周年記念誌」の発刊と、今年5月の定期総会終了後の懇親会を、創立50周年記念祝賀パーティーに置き換えて、校友の皆さんでお祝いしようと計画中です。校友の皆様お誘いあわせの上ご出席下さいますようお願い申し上げます。なお、記念誌はパーティー出席者全員にお配りする予定です。詳細は後日事務局よりご案内申し上げます。

通信教育部の卒業生は、令和4年3月と9月の卒業生を加えて、3万7700名余りに成ります。その卒業生で組織している通信教育部校友会では世代交代も考えて、新しい卒業生の役員を切望しています、本会の行事に参加して、ご意見をお聞かせください。宜しくお願い致します。

校友の皆様のご支援・ご協力を宜しくお願い申し上げます。

今年は、校友会の全ての行事が対面で開催される様になり、皆様と楽しい会話が出来る事を願いつつ、皆様のご多幸をお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせて頂きます。最後になりましたが、まだまだコロナ禍が続いております、お身体ご自愛くださいませ。

新年のご挨拶

日本大学通信教育部 部長
大学院総合社会情報研究科長　松重 充浩

日本大学通信教育部校友会の皆様、新年明けまして、おめでとうございます。旧年中には、皆様方から通信教育部と大学院総合社会情報研究科に多大なご支援を賜りましたこと、厚くお礼申し上げます。また、本年も変わらぬご高配を賜りますよう、伏してお願い申し上げます。

さて、昨年も、様々な形で新型コロナウィルス感染症の影響が続く一年となりました。さすがに、一昨年までの感染の猛威が継続するようなことはなく、通信教育部や大学院総合社会情報研究科では、一部で対面式授業が再開されました。5月には本誌99号で紹介された通り通信教育部校友会総会も対面で実施され、各地校友会での対面方式の活動も再開され始めました。しかしながら、断続的に感染が急増する状況もあり、その都度、大学での様々な行事や活動に制限を設けざるを得ず、学生・院生や校友の皆様には、ご不便やご迷惑をおかけすることとなりました。ご寛恕賜りますようお願い申し上げます。

そのような状況ではありましたが、昨年は日本大学にとって、「再生」に向けての新たな一歩を踏み出す大きな節目となる年でもありました。昨年7月に正式就任された林真理子新理事長と酒井健夫新学長からは、日本大学の再生と新たな飛躍に向けての力強いメッセージが大学HPや各種メディアを通じて随時発信されました。また、そのメッセージを具体化させていくための、大幅な事務局人事の刷新、不祥事発覚時に組織された第三者委員会とは別の新たな調査委員会の立ち上げ、新たな教学推進組織としての教学推進センターと教学オフィスの設置などが、次々に決定・実施されています。

もちろん、これらの施策は、決定されさえすれば良いといった類いのものではなく、その執行プロセスと成果如何が厳しく吟味されるべきであることは言うまでもありません。その意味で、本年は、日本大学再生の「実」が問われる一年でもあると言えるでしょう。通信教育部・大学院総合社会情報研究科においても、その「実」を得るべく、より充実した授業方法や学生・院生への対応、あるいは校友の皆様と在校生・教員との交流機会の増加にむけて、教職員一同全力で取り組んで行く所存であります。

その際、校友の皆様からの愛情ある、しかし忌憚のないご指摘やご助言が不可欠となります。日本大学再生の柱の一つである大きく失墜した社会的評価の回復には、ともすれば「内向き」になりがちが大学教職員の耳目を社会一般に開いておくことが大切で、そこでは社会と日々深く切り結んでおられる校友の皆様からの「声」が大きな支えになるからです。私としては、校友の皆様と共に、再生日大にふさわしい通信教育部・大学院総合社会情報研究科の充実化に努めて参りたいと考えております。校友の皆様には、これからも、通信教育部・大学院総合社会情報研究科の社会的責務といった見地からも、ご助言とご助力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

最後になりましたが、通信教育部校友会の皆様の益々のご健勝とご活躍を心から祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

日本大学校友会 会長代行　小幡　純

通信教育部校友会の皆様、新年あけましておめでとうございます。

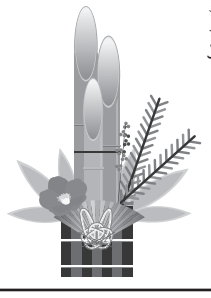
現在、校友会会長代行を務めさせていただいております、小幡　純と申します。

この度の一連の不祥事につきましては、当時、校友会の役員であった者が関与していたことにより、校友である皆様には多大なる御迷惑と御心配をお掛けいたしましたこと、校友会を代表いたしまして改めてお詫び申し上げます。

既に皆様も御存知のとおり、母校である大学は一連の不祥事に対しまして、健全な管理運営体制の構築に向けた改革を推進することを公表し、新制度に基づく新体制を令和4年7月1日から発足させ、新理事長に林真理子氏、新学長に酒井健夫氏が就任いたしました。林理事長は、就任に際し三つの改革事案を発表し、その中の一つとして再発防止の観点から「特別調査委員会」の設置を手始めに改革に着手されております。

我々校友会もまた、これまでの校友会とは異なる、風通しの良い組織に改革するため、コンプライアンスの遵守はもとより、ジェンダーバランスに配慮した校友会役員の選出など、公明正大な組織運営に努めていくことを目的に、令和4年7月14日に「校友会改革会議」を設置いたしました。校友会改革会議では、会則・規程等のルールの見直し、役員改選を含む役員数や選出方法などの人事的見直し、準会員・正会員制度を含めた財政的見直しを軸に改革に取り組んでおります。

さて、時は1893年、明治26年にまで遡りますが、この前年に学祖である山田顕義の急逝により日本大学の前身である日本法律学校は経営難に陥り、まさに廃校の危機に見舞われました。それを江東中村楼で開催された懇親会において知らされた第1回卒業生たちが猛然と奮い立ち、母校のために奔走したことで、その窮地を救ったことは周知の事実です。このように、いつの時代においても卒業生である校友の奮闘により、幾度という危機を大学は乗り越えて参りました。そしてまた歴史は繰り返され、今まさに我々の時代においてもその窮地を救うため、校友会が今以上に一致団結していくことが最終的には母校の興隆発展に繋がると信じております。

校友会は、大学の共生組織体として、まさに車の両輪の如く、常に大学を守り、支援することが校友会会則でも謳われております。全国で活躍する誇り高き123万の校友たちのためにも、また現在コロナ禍の中、勉学に励む在学生は元より、今後入学してくる若き後輩たちのためにも、今こそ我々校友会が母校のために尽力することが重要です。そして、大学と常に連携を図りながら、お互いに支え助けあっていくことこそが、大学及び校友会の再生には必要不可欠であると考えます。そのためには、皆様からの御支援と御協力を改めて賜りますよう、校友会を代表してお願い申し上げます。

最後になりましたが、通信教育部校友会の益々の御発展と、会員の皆様の更なる御活躍を祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。